

新風

平成28年 1月25日

多治見市立陶都中学校

No. 1 1

地域貢献への第一歩。

多治見市立陶都中学校 松山 央

先日の大雪には驚かされましたが、雪の降り積もった歩道を歩いてやってくる子ども達と雪かきに精を出す教職員との間に交わされる挨拶は、いつも以上に温かいものを感じました。この「大寒」の時期の寒さに耐えてこそ、来る春の喜びもひとしおと思います。3年生の進路実現も含め、今が踏ん張り時です。

さて、学校では今、新しい活動が始まっています。それを紹介させていただきます。

後期の生徒会長は、立候補の際に公約の一つとして「ゴミ拾いボランティアの復活」を掲げました。中身は、以前にも本校が行っていた登校時における通学路のゴミ拾い活動なのですが、会長としては「自ら動く意識」というものを大切にしたいということから、この活動の復活を掲げました。今年度の生徒会スローガンは「飛躍」です。そのためには、さらに一人一人の高い意識が大切であり、ゴミを見つけて拾うという自主的な活動によってそれは高められるというわけです。そうしたこともあり、復活ゴミ拾いは、あくまでも一人一人の自主性が重んじられています。方法は、金曜日のお昼の放送で翌週月曜日のゴミ拾い活動を呼び掛けます。そして、その呼び掛けに応じて参加しようと思う人が、お昼休みに専用のゴミ袋を取りに来るのです。以前は、全校生徒にこの袋が配られたそうですが、こうやって自ら取りに行くところから、この活動は始まります。なるほどと感じました。そして、土曜日、日曜日を経て、月曜の朝を迎えます。



第1回目は、12月21日でした。この日はあいにくの冷たい雨が降る朝となりました。月曜の朝というだけで気分は重くなるのですが、おまけに冷たい雨降り。1回目としては最悪の状態であることを恨みながら、生徒玄関まで様子を見に行きました。しばらく待っていると、何と、1年生の女子がゴミ袋を下げてやってきました。傘をさしながらゴミを見つけては袋に入れる。かなり面倒ですし、手も汚れます。そして、土・日を挟んでいますから、忘れることもあります。そんな悪条件の中で、よくぞまあ拾って来たもんだなあ、本当に感心しました。その子を最初に、その後あちこちの通学路からたくさんの生徒が、ゴミ袋を下げながら登校してきました。2回目は、3連休明けの1月12日でした。この日も多くの生徒が通学路のゴミを拾って登校してきました。



まだ、2回が終わっただけです。でも、こうやって通学路を通る生徒がゴミを拾って来るだけで通学路周辺は、間違いなく美しくなります。これまで、通学路を歩くと、植え込みの中などに空き缶やお菓子の包みなどが結構捨ててあるのを目にしてきました。そうした状態に対し、通学路を利用する生徒自身が自らの手でゴミを拾う。一人一人の活動としては、小さなものかもしれませんが、これが全校レベルとなると効果は絶大です。今は、ボランティアという名前が付いていますが、本来、自分たちが利用する通学路を自分たちの手で美しくするというのは、ごく自然な動きだと思います。この活動を本校生徒会執行委員は1月7日の連合生徒会で発表しました。その時「これまで陶都中学校は、校内の姿を高めることに手一杯でした。しかし、昨年度、今年度と校内の姿が落ち着いてくるにつれて、校外へと目を向ける余力も出てきました。これから先は、もっと地域に貢献できる学校を目指し、活動を続けていきたいです。」と語りました。できることから始め、それを自分たちの常識にまで高めていく。そして、そうした自分たちの動きで地域の方と結びついていく。そんな姿を思い描いているのです。



次回は、1月27日(水)。さらなる広がりを願っています。

「人に迷惑をかけない」 多治見市教育委員会

子どもの頃に、親から、また、祖父母から「人に迷惑をかけないようにしなさいよ」と言われて育った方も多いのではないのでしょうか。今、自分が行くことが、人に迷惑をかけるのかどうか、また、もうすでに迷惑をかけてしまっているのかを、子どもが気づき、判断する力はどのように育てていくのでしょうか。

その方法の一つは、親や家族が、日頃から子どもの話をよく聞いて、気持ちを理解しながら教えていくことです。また、子どもは身近な大人の姿を見て育つことが多いものです。教えるということは、聞き・話すだけではなく、姿で示すことも大変重要なことなのです。

今年度の「家族の約束十二か条三行詩」の入選作品に、次のような作品があります。

親育ちコーナー

じぶんがされていやなことは ひとにもしない
じぶんがされてうれしいことは ひとにもやっあげよう 滝呂小1年 児童

